

AV ドーナツの効果(1)(HP 収載) ーデジタルケーブル(1)ー

1. 始めに

インフラノイスのホームページで紹介のあった AV ドーナツを感想文の景品として入手しましたので、適用箇所を選択しつつその効果を検討します。

2. AV ドーナツの試聴計画

インフラノイスのホームページによれば、デジタルとアナログケーブルに通して使うことができ、一つ一つ調整して供給され、穴の直径は 15mm ですので、ケーブルやそのプラグの直径はそれ以下の必要があります。また、アナログケーブルの場合は、1 個しか供給されませんので、L/R2 本を同時に通すことが必要です。

今回は、デジタルケーブルに適用することとし、DMR-UBZ1 と Sonica DAC 間のデジタルケーブルを対象に選定しました。



右下：A サイド 左上：B サイド

なお、方向性があるとのことで、上記のとおり命名し、どちらを信号系の上流にするかも検討します。

試聴する音源はアースアキュライザーの導入(13)で試聴した次のものです。

ベルリンフィルデジタルコンサートホール

フランツ・リスト ピアノ協奏曲 1 番

エフゲニー・キーシン (ピアノ)

マリス・ヤンソンス指揮ベルリンフィル

放送録画 (DMR-UBZ1 HDD 保存)

J.S.バッハ 無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータ

ファビオ・ビオンディ (ヴァイオリン)

グスタフ・マーラー 交響曲 1 番

ヨアナ・マルヴィッツ指揮ベルリンコンサートハウス

3. AV ドーナツの試聴の試聴結果

AV ドーナツは穴の直径は 15mm、外径は 45mm、厚みは 25mm ですので、適用ケーブルの径は穴の直径以下であることが必要です。そして、例え、ケーブルの中ほどまで通せず、プラグ部が通せた場合でも、近傍に他のポートとケーブルがある場合、外径が邪魔をして使用できない場合があります。これによりバランスケーブルや、複数のケーブルを通すことが必要なアナログケーブルとスピーカーケーブルは適用が困難となり、多くのポートが近接している機器のケーブルへの接続も制限を受けます。

そのようなことで DMR-UBZ1 と Sonica DAC 間のデジタルケーブルも問題がありますが、幸いにも、デジタルアキュライザー-DACU-500 が介在していますので、この部分を AV ドーナツに通してみます。デジタルアキュライザーに入力するデジタルケーブルには、アモルメットコアを通しており、これはそのまま使用します。従って、アモルメットコアの効果の上に AV ドーナツの効果が上乗せすることになります。



なお、A サイド、B サイドのどちらを信号の上流側とするかについては、チェックの結果、A サイドを上流の DMR-UBZ1 側にした方が、ディテールの再現がよく音に深みができるようです。

上記の音源を AV ドーナツなしで聴いておき、ついでデジタルアキュライザーを AV ドーナツに通して聴いていきます。

リストのピアノ協奏曲 1 番は、これまでの LAN アクライザーやアースアクライザーで、音の精度は十分すぎるくらい確保できると思っていたが、デジタルアクライザーを AV ドーナッツに通しますと、オーケストラの少しばかり残っていた音の曖昧さが払拭され、ピアノのアタック感が向上し、余分な響きが減ってきます。

バッハの無伴奏ヴァイオリンソナタ・パルティータは、ビオンディの演奏するガダニーニの音に深みがでて、バッハのこの曲の表現力が強まります。

マーラーの交響曲 1 番は、オーケストラの少しばかり残っていた音の曖昧さが払拭され、音の焦点があって個々の楽器の質感が向上します。

4. まとめ

DMR-UBZ1 と Sonica DAC 間のデジタルケーブルに介在するデジタルアクライザーを AV ドーナッツに通す効果を認めました。

以上